

消防団、夜ポンプ稼働点検を取材！

3月23日夜、消防団第12分団の資機材点検があるとの情報をもらい、同夜19:30月夜の消防国府分署隣の消防団第12分団に行きました。すでに団員たちが集まり点検打ち合わせが行われていました。

この日の点検は防火水槽での消防車放水ポンプ稼働点検との事。消防車は火災現場に到着するとポンプを起動し防火水槽等の水利から水を吸い上げて消火に当たります。

ここで大切な事は、ポンプに真空がかかり水を上手く吸い上げ、放水出来るかです。そして、同時にこの点検は防火水槽の水量や異常のチェックにもなります。

打ち合わせ後出かけた先は、国府小体育館入口左方の防火水槽。消防車は路肩に止められ、給水ホースと放水ホースを接続してポンプを起動。期待した放水はありません。

給水、放水は防火水槽2箇所2箇所のマンホールで循環する様に行われていました。道路に立って交通整理、ホース係など役割分担で点検が展開されていました。他にもチェーンソーや車載道具、発電機などの点検も日によって点検しているそうです。

消防団の方々は、個々の仕事(職業)を持っています。こうした時間を使って日頃から訓練や点検を行い、いざという時に地域の人々の生命と財産を守るために、いつも正常に使える様、頑張っている事を初めて見て知る事が出来ました。

12分団では4月より新任の齊藤分団長のもと石神台からは4名(簗島、野村、二宮、大川)の参加で総勢14名で活動しています。(S記)



2024/03/23



能登半島地震…Sさんの感じたこと

「能登半島地震に感じたこと…」を前号に続いて編集委員のSさんに書いてもらいました。

- ①道路がめくり上がり、波打ち、土砂崩れが起き、線路は曲り陸路はダメで孤立集落が発生していた。
 - ・空路、海路を使うことを考えておくことが必要かな…。
- ②家屋の倒壊で多数の死者
 - ・耐震補強が不十分⇒お金がかかる。公的資金援助があればいいな…。
 - ・机の下にもぐって助かった事例有り⇒シェイクアウト大事だね。
- ③輪島朝市火災で消滅⇒初期消火の遅れ⇒火元は電気に関連する発火ではないと言われる⇒・避難する時はブレイカーを切ることが重要だ。
- ④避難する時にお互いに助け合った⇒共助が必要だな。
 - ・避難を支援してくれる人をあらかじめ決めて置く、隣り近所、地域の人たちと仲良しになっておく⇒みちくさ、ガーディアン、歌声サロン、ソフトボールクラブ、青春クラブ等々に参加するも良いので はないかな。
- ⑤災害ボランティアを被災者の皆さん期待している⇒災害ボランティアの受け入れ体制が重要⇒宿泊場所、移動手段等
- ⑥食料品の備蓄、特に水⇒各家庭で備蓄
 - ・これからもこのような地震起こり得ると思う、きちんと向き合うことが大切と思う。(Sさん)